

— 楽園のゲルニカ —

大川ユウ

8

PELELIU
BERNICA OF PARADISE



武

田

一

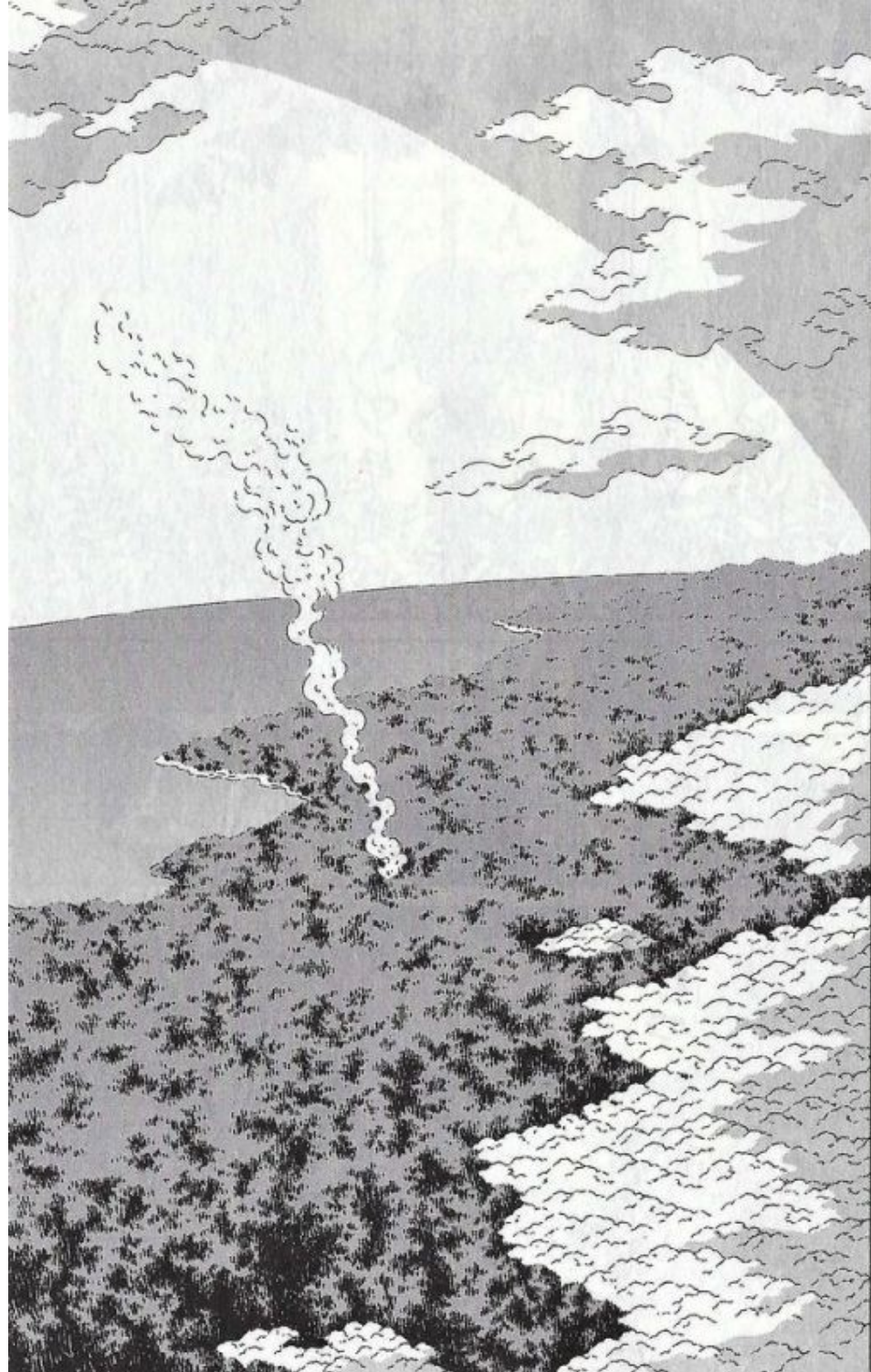
義

KAZUYOSHI TAKEDA PRESENTS

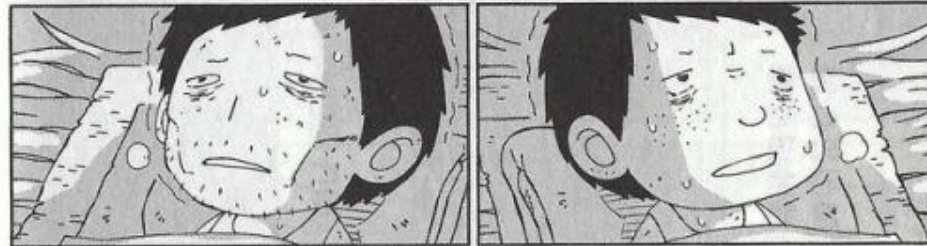
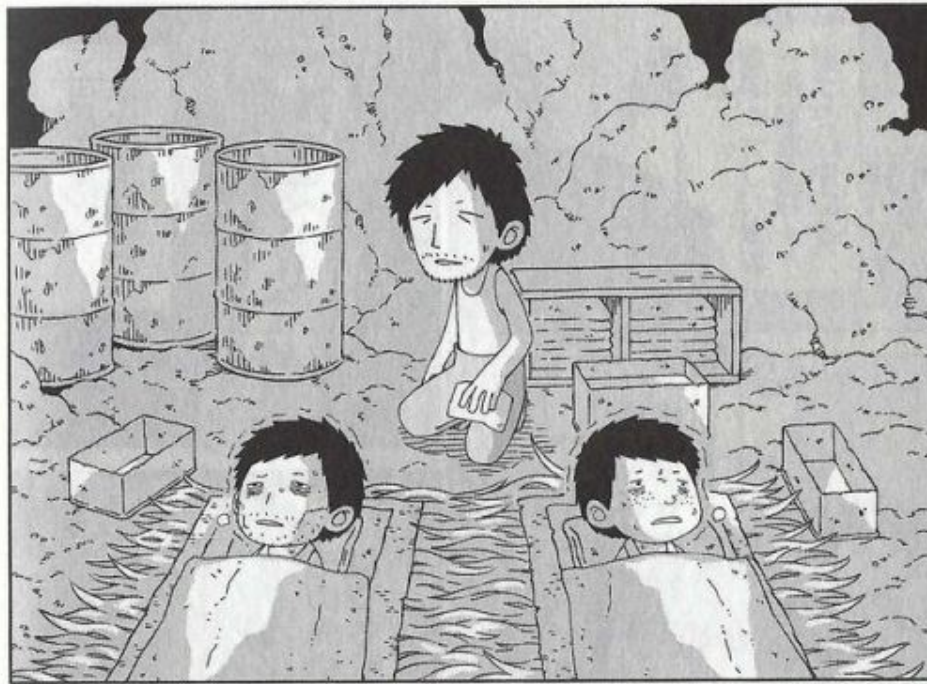
原案協力 平塚 征緒
(太平洋戦争研究会)

PROVISOIRE

YOUNG ANIMAL COMICS









米軍の新聞や雑誌

米軍のゴミ捨て場で拾う新聞や雑誌には東京から発信された「ライフ」のAP電や、ダグラス・マッカーサーが日本にいる写真があった。それを目にした兵士は、日本が「不利」ということは認識していたという証言を残している。しかし多くは、新聞や雑誌は米軍によるデマだと考えていた。なぜ彼らは、敗戦を受け入れず、持久を続けることを選んだのか。

一つ目の理由は戦争中、日本では敵の捕虜になることは罪であり、まして投降して自ら捕虜になれば、軍法会議にかかって生還しても死刑になることが、共通認識だったこと。事実、戦闘中、再三にわたって投降勧告ビラが撒かれた際にも、応じずに多くが命を落としている。

二つ目に集団心理。敗戦の確証を得る手段がない中、誰か一人が罵られれば集団の生存を脅かすことになる。敗戦を口にすることは、易々とは出来なかった。



▶70Pに掲載された雑誌の元になった写真。
銀座4丁目の三越前に「タイムズスクエア」の看板を掲げる米海兵隊員。
1947年10月7日撮影。写真提供：近藤代フオトライムリ